

1 国家とは

正当な暴力を独占する政府・統治機関を中心に営まれ、かつ人々がそれを期待し、また承認を与えている行動の仕組み

国家=政府ではない 政府(「政」と「官」)と国民(「民」)と法によって構成される行動の仕組み

2 国家は必要か?

○一部論壇・マスコミの動向 EUの成立 経済のグローバル化 「地球市民」の時代
ヒト・モノ・カネのグローバル化 ヒトは自在に動くか
学問的論議と現実の論議 タイムスパンの問題

○世論の動向

新聞調査 外国籍を取ってみたい人 50パーセント 「戦争のない時代に生まれた私たち」

○戦後の思想・学問状況

憲法第九条 「平和を愛する諸国民」 未曾有の敗戦の経験
日本の近代化の誤り 現実には戦争の絶えない世界

国家学から政治学へ 政府と人民 マルクス主義による国家論 階級支配の道具

○進歩観念と二者択一的な思考 国家(対立)から人類社会(平和)への不断の進歩を確認したいという願望 「国民か市民か」といった二者択一 「バスに乗り遅れるな」
直線的な変化と進歩の歴史 \leftrightarrow 堆積的で重層的な歴史 一様な「世界の大勢」はない

例 刑罰の考え方 応報から教育へ

家族、朋友関係、市民社会、地域団体、国家、地域協議機関、地域共同体、国際連合が重なり合っている。それに応じて、各個人の中にも複数のアイデンティティーがある。

国家という仕組みに関わる限りでは人は国民になる

国家は「フィクション」か 国民国家は自覚的に作られ維持されるもの

3 国民と民族

個人の外ではなく個人の心の中に「実在」する国家

国家の登場する例 警察 国家がないとどうなるか 私的暴力の容認

個人の外にあるのは「政」と「官」

ナショナリズムとの関係 政府と人民 国家のメンバーは単なる「人間」か
特定の地域の地理歴史環境に育まれた「文化」を担った人々=民族を中心として国民が形成される 歴史により異なる 人間=国民ではない 「国民の権利」と「人権」
民族相互の争い(民族間の調和自体が課題となっている国家もある)

防衛が国家の基本課題

「同じ日本人」という意識は「実在」する 例 原爆の体験 オリンピックの応援
国民という長期的に存続する「フィクション」を考えないと、領土権の説明もできない
民族・国民意識を前提にしながら、他民族との共存の道を探る

4 二十一世紀の日本の課題

「日本人」から「日本国民」へ 「国民」としてのレベルが曖昧な日本人
○ユーラシア極東部の島国という地理的環境 文化の伝播だけあって異民族侵入はない
異様に戦争の数の少ない歴史 非武装中立論のリアリティ プラスイメージの「国際
社会」
対外的な意味での「国家」を形成したのは七～八世紀と19世紀の二回だけ ユーラシ
ア東辺部の動乱 古代の随・唐の膨張 元寇 十九世紀初頭(ロシアとイギリスの衝突)
朝鮮戦争
敗戦による近代国家建設の体験の否定

○冷戦終了とユーラシアからの新たな圧力

世界の大勢とアジアの大勢 日本だけに関わる国際的課題の噴出
北朝鮮拉致事件、中国の軍事力拡大
国家への信頼度の低下 オウム真理教 警察不祥事移民政策と日本国民の観念 「日
本人」ならざる「日本国民」の受容
第3期の国家形成の時期

○日本国のかたち 天皇制度と国民主権は相互補完的 フランスの歴史とは異なる
戊辰戦争とフランス革命 五箇条の御誓文 日本の立憲主義